

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 生徒の「社会と調和し生きる力」「社会で求められる即戦力」を育成し、地域から信頼される学校

総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現

⇒○生徒一人ひとりのニーズに応じた、きめ細かい丁寧な指導を実践

○地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育の実践

- (1) 自己を高める力・・・確かな学力を育み ねばり強さと未来に希望を持つ志の育成
- (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り 周囲と協力し合う力の育成
- (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力の育成

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

(1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。

(2) エンパワメントスクール（総合学科）として、選択科目およびエンパワメントタイムの学習内容のさらなる充実と、新学習指導要領における教育活動の充実を図る。

\* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度：

平成29年度 49.5% → 平成30年度 60.2% → 令和元年度 59.3%

→ 令和2年度 60%以上 → 令和3年度 63%以上 → 令和4年度 63%以上

## 2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

(1) 生徒一人ひとりを大切にす生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。

\* 中途退学率：平成29年度 8.8% → 平成30年度 6.1% → 令和元年度 6.2%

→ 令和2年度 5%以下 → 令和3年度 5%以下 → 令和4年度 5%以下

(2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。

(3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。

(4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、随時、ケース会議及び拡大教育相談委員会を開くなど、積極的計画的に生徒支援や進路支援をしていく。

\* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価：

平成29年度 58.2% → 平成30年度 63.2% → 令和元年度 64.8%

→ 令和2年度 65%以上 → 令和3年度 67%以上 → 令和4年度 67%以上

(5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。

(6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努める。

(7) 外国にルーツを持つ生徒が多数在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

\* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価：

平成29年度 43.6% → 平成30年度 58.4% → 令和元 68.8%

→ 令和2年度 70%以上 → 令和3年度 72%以上 → 令和4年度 75%以上

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

(1) 自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践し、「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さ」を理解し、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを積極的に進める。

(2) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としてキャリア教育を中心とした教育活動をすすめる、社会で活躍する意欲や態度を育成する。

\* 進路決定率：平成29年度 81.6% → 平成30年度 83.2% → 令和元年度 82.9%

→ 令和2年度 85%以上 → 令和3年度 85%以上 → 令和4年度 85%以上

\* 学校教育自己診断の生徒の将来の進路や生き方の項目の肯定的評価：

平成29年度 70.6% → 平成30年度 76.3% → 令和元年度 75.7%

→ 令和2年度 78%以上 → 令和3年度 80%以上 → 令和4年度 80%以上

## 4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

(1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。

\* 学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度：

平成29年度 58.1% → 平成30年度 63.1% → 令和元年度 65.4%

→ 令和2年度 67%以上 → 令和3年度 70%以上 → 令和4年度 70%以上

\* 学校教育自己診断における卒業時の生徒のエンパワメントスクール満足度：

令和元年度 78.6% → 令和2年度 80%以上 → 令和3年度 80%以上 → 令和4年度 80%以上

(2) デュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は昨年より増加した。(562←491)</li> <li>・4点満点に換算した全体のポイント平均は、昨年度よりかなり上昇した。(3.05←2.83)</li> <li>・評価の高い設問は、「21：授業などでコンピュータやプロジェクタを活用している」(3.52P)、「22：この学校にはデュアルシステムをはじめ、他の学校にない特色がある」(3.48P)で、昨年度と比べて評価が増加した設問は、「17：人権について学ぶ機会がある」(+0.44)、「19：先生は、お互いに協力し合っている」(+0.39)であった。</li> <li>・評価が低い設問は、「24：授業や部活動などで、保護者や地域の人とかかわる機会がある」(2.36P)、「15：学校は生徒会活動が活発である」(2.65P)であった。</li> <li>・教員の日常の頑張りは、ある程度生徒に高い評価を得ている。昨年度評価の低かった人権教育の学びについても評価は上がった。その反面、コロナの影響で、外部との連携による本校特色ある教育活動や、学校行事を中心と生徒会活動は不十分であると生徒も感じている。今後はコロナ感染予防をしたうえで教育活動を模索する必要がある。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は減少した。(116←146)</li> <li>・4点満点に換算した全体のポイント平均は、昨年度より上昇した。(3.14←2.99)</li> <li>・評価の高い設問は、「19：デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験になると思う」(3.53P)、「20：子どもがエンパワメントスクールに入学してよかったと思う」(3.50P)で、昨年度と比べて評価が増加した設問は、「12：布施北高校のホームページを見ることがある」(+0.86)、「8：学校の生徒指導の方針に共感できる」(+0.32)、「7：学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」(+0.30)であった。</li> <li>・評価の低い設問は、「11：学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(2.33P)で、昨年度と比べて減少した設問は、「19：デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験になると思う」(-0.11)「20：子どもがエンパワメントスクールに入学してよかったと思う」(-0.10)であった。</li> <li>・コロナによる臨時休業や学校再開の連絡もあり、HPやメールの利用が増えた。また、保護者との連携のもと、学校への信頼の評価は上昇した。その反面、コロナの影響で、保護者の学校行事への参加に制限せざるえない状況があったため、保護者にとっても不十分と感じている。外部と連携するデュアルシステムやエンパワメントスクールといった本校の特色ある取り組みについては、昨年度から比べると評価は下がったが、相変わらず肯定的評価が高かった。今後はコロナ感染予防をしたうえでの保護者の参加活動や外部と連携したキャリア教育等のあり方を模索する必要がある。</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は昨年度並みであった。(55←61)。</li> <li>・4点満点に換算した全体のポイント平均は、下降した。(2.75←2.88)</li> <li>・評価の高い設問は、「29：デュアルシステムなど、地域連携を教育活動に生かしている」(3.46P)、「12：この学校では、生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、体系的なキャリア教育を行っている」(3.29P)で、昨年度と比べて評価が増加した設問は、「16：学校として、在籍している外国から来た生徒に対し、教育委員会事業や学校独自の取り組み等で支援する体制がある」(+0.25)であった。</li> <li>・評価が低く昨年度と比べて減少した設問は、「19：校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」(1.91P) (-0.60)、「20：学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」(1.95P) (-0.66)であった。</li> <li>・教職員が、本校の特色の柱である、デュアルシステムを中心とするキャリア教育や外国人理解をはじめとする人権教育を十分に理解して教育活動に取り組んでいる成果が結果として表れている。しかし、今年度は、教職員のチーム力と主体性を重視した面と、学校経営より個々のコロナ対応が中心となり、慣れない中での判断で校長として迷いや戸惑い、三密を避けるため会議の簡素化もあり、教職員にとっては校長のリーダー性に不安を与えた面もあった。今後、教職員への情報発信をわかりやすい形で伝える必要がある。</li> </ul>	<p>第1回(7月4日)</p> <p><b>【テーマ】</b> コロナ禍で見えた学校の課題と新しい生活様式での学校の特色づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績については一定の成果をあげているが、今年度はコロナの影響もあり斡旋就職希望者が増加。進路決定率を更にあげることが重要。直に社会を見聞きできるデュアル実習等を通して、直接体験することに活路がある。1年次のインターンシップの回数や行き先を増やすことを検討してはどうか。</li> <li>・コロナの影響と学習保障の観点から土曜授業が 増加し行事と夏休み冬休みが 減少。授業ばかりで学校が嫌になるのではと不安。何よりも魅力的な場づくりが 大事 。行きたいという動機づけが必要。</li> <li>・デュアル実習や文化祭等、生徒のために培ってきた様々な行事には歴史がある。減らさずに実施する工夫が大切。</li> <li>・生徒の命も教員の命も守るためにも、全ては生徒のためという発想で柔軟に対応すべき。</li> <li>・エッセンシャルワークは医療従事者だけでなく、コンビニ店員や農家、教員もそうである。コロナは命の維持の大切さや社会のあり方そのものを問いかけている。</li> <li>・コロナ対応は、一緒に経験して皆で乗り越えていくもの。どの世代よりも強く生きていける世代になる可能性もある。学校は、予防等、きちんと対策を講じながら、生徒をしっかり育ててほしい。</li> <li>・人権教育 とキャリア教育が布施北の柱。デュアル実習をより良い形で継続していくことが大切。文部科学省の事業申請等、挑戦を続けてほしい。</li> </ul> <p>第2回(12月11日)</p> <p><b>【テーマ】</b> コロナによる新しい生活様式で生徒につける新たな力と教員の授業力</p> <p>○授業力について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像など活用して、丁寧に教えられている。特に「キャリア基礎」の授業は、ブラックアルバイトをテーマに、話し合いを通じて、生徒たちの考えや思いを引き出す形式で、生徒の身につく授業であった。</li> </ul> <p>○新型コロナウイルスにかかる現状と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな課題が突き付けられている。できることにベストを尽くしてやっていく。そして、コロナ後に何ができるかを考えるべきである。助け合い、関わりあうのが人間本来の姿。</li> <li>・今年度は、行事やPTA 活動は中止や縮小実施。省くことだけが正解ではないので、工夫して実施してほしい。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアルシステムの持続的発展を支える布施北高校地域学校協働本部設立についての提案と承認。</li> <li>・学校運営協議会は公的なものであって重要だが、回数・人員に制約がある。布施北も生き残りが必要。デュアルシステムに特化した部分での地域との連携を進める組織が必要と考える。</li> <li>・学校や生徒にとって負にならないよう、地域や企業の方々が、学校に協力、支援する母体になればと思う。</li> </ul> <p>第3回(2月13日)</p> <p><b>【テーマ】</b> 令和2年度の総括と令和3年度に向けて</p> <p>○学校より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断結果、総合学科卒業生アンケート結果、布施北の状況(入試関係・遅刻欠席関係・進路関係等)、R2学校評価結果について</li> <li>・R3学校経営計画について(めざす学校像・中期目標)※承認していただいた。</li> </ul> <p>○ご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンパワメントスクール全体や布施北の受験希望者の減少が心配。</li> <li>・コロナ禍で実習等に行けてない状況の中、生徒の数値が上昇しているのは、教員の努力の成果。またコロナ禍の影響もあるのか、接客業等、進路決定率の低下が気がかりである。</li> <li>・学校満足度80%はすばらしいが、残りの20%程の生徒への着目も必要。生徒会活動をもっと活発に！そして、教師と生徒が団結してさらに広報してほしい。</li> <li>・コロナ禍でデュアル実習が縮小されているなら来年以降、就職・進学ともに厳しいのではないか。</li> </ul> <p><b>【テーマ】</b> 一人一社制の見直しとコロナ禍での学校における進路指導 について</p> <p>○意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力が低い生徒には厳しい。未定率が上がるのではと心配。就職率も大切だが離職率にも目を向けなければならない。生徒の将来にかかわるので、早くから生徒のためになるようもっと考えなければならない。デュアルが大きな要になってくる。</li> <li>・弱肉強食・自己責任のなかでやっていくしかない社会になっていくよう。それを高校時代に 経験させようとしているのは無謀である。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアルシステムの持続的発展を支える布施北高校地域協働本部準備会についての報告(準備会の実施・設立経緯と運営方向・第1回の開催日程)</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 学習活動の充実</p>	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備</p> <p>(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上</p> <p>(3) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実</p>	<p>(1) ア 授業中の「五大規律」を徹底指導し、生徒が集中し落ち着いて取り組める授業環境を作る。</p> <p>イ 習熟度別授業を中心に授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。</p> <p>(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型授業を充実させる。</p> <p>イ 授業公開週間を設定し、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究を行ったり、指導内容に議論する場の設定をする。</p> <p>ウ ICT活用などユニバーサルデザインの視点からも授業方法・指導方法について工夫改善を行う。</p> <p>(3) ア 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習のスムーズな実習を遂行する。</p> <p>イ エンパワメントタイムの教育内容を充実させる。</p>	<p>(1) ア 授業中における懲戒生徒数 (R1年度 11人)</p> <p>イ 生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価 60%以上 (R1年 59.3%)</p> <p>(2) アイウ ・ 生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 85%以上の継続 (R1年度 87.6%)</p> <p>・ 生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価 80%以上 (R1年度 79.0%)</p> <p>・ 教職員学校教育自己診断「指導方法、指導内容の検討や工夫改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ (R1年度 61.3%)</p> <p>(3) ア インターンシップ出席率の維持 (R1年度 99%)</p> <p>ア デュアル実習出席率の維持 (R1年度 94%)</p> <p>イ 学校教育自己診断における卒業時の生徒のエンパワメントスクール満足度 (R1年度 78.6%)</p>	<p>(1) ア 従前よりさらに落ち着いた学習環境が保たれ、生徒への要求水準がアップしながらも、一致した指導ができています。 *授業中における懲戒生徒数 6人 (R1年度 11人) (○)</p> <p>イ 生徒の習熟度の応じた課題、目標設定の授業が実施され、生徒は授業に対し前向きに取り組み、分かりやすさや楽しさを感じている生徒が多い。 *生徒学校教育自己診断の授業満足度肯定的評価 74.7% (R1年度 59.3%) (◎)</p> <p>(2) アイウ 授業づくりや授業力についての教員の意識が高まり、教員が工夫を凝らすことにより、エンパワメントタイムを中心に、積極的にICT活用や主体的、対話的授業展開を実践している。 *生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 92.9% (R1年度 87.6%) (◎)</p> <p>*生徒学校教育自己診断「教え方に工夫」肯定的評価 86.3% (R1年度 79.0%) (◎)</p> <p>*教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」「授業方法について検討する機会」肯定的評価平均 62.8% (R1年度 61.3%) (○)</p> <p>(3) ア コロナ禍によりインターンシップ(1年生)やデュアル実習(2.3年生)の実施が制限され、余儀なく中止となり、校内研修やその代替え行事となったことも多かった。 *職場見学(インターンシップに代わるもの)出席率の維持 97% (R1年度 99%) (△)</p> <p>*デュアル実習出席率(校内研修含む) 97.5% (R1年度 94%) (○)</p> <p>イ エンパワメントスクール4年めとなるため、エンパワメントタイムの教育内容は、さらに充実させることができた。 *学校教育自己診断における卒業時の生徒のエンパワメントスクール満足度 86.4% (R1年度 78.6%) (◎)</p>
	<p>2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかりと把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p>	<p>(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識を醸成する。</p> <p>イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図る。</p> <p>ウ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校校訪問を実施する。</p> <p>エ 子ども家庭センターなど外部機関との連携を進め生徒指導を充実させる。</p> <p>(2) ア 生徒の状況把握に努めるとともに、要配慮生徒や課題を抱える生徒への教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を強化し、ケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。</p>	<p>(1) アイウエ ・ 懲戒生徒人数の減少 (R1年度 89人)</p> <p>・ 長期欠席者数の減少 (R1年度 75人)</p> <p>・ 中途退学者率 5%以下 (R1年度 6.2%)</p> <p>・ 欠席延人数の減少 (R1年度 7347)</p> <p>・ 遅刻延人数の減少 (R1年度 6012)</p> <p>(2) ア 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価のアップ (R1年度 64.8%)</p> <p>ア 教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価 90%以上継続 (R1年度 90.2%)</p>

## 府立布施北高等学校

	<p>(3) 人権教育の推進</p>	<p>イ 学校行事を見直し、工夫、改善を行い、内容の充実を図るとともに、部活動や生徒会の活動を活発化させる。</p> <p>(3) ア 生徒対象の人権学習を系統的、計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導、障がい理解等をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>イ 教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価 75%以上継続 (R1年度 75.4%)</p> <p>イ 部活動加入率 30%以上 (R1年度 30%)</p> <p>(3) ア 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 70%以上 (R1年度 68.8%)</p> <p>イ 教職員研修年間4回以上 (R1年度 3回)</p> <p>ウ 生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会」肯定的評価 50%以上 (R1年度 48.1%)</p>	<p>イ コロナ禍で中止にした学校行事もあり、実施の場合でも感染予防した上での実施が強いられた。部活動については、年度当初の新一年生へのクラブ紹介やクラブ体験も実施できなかったが、上級生の勧誘や広報で積極的な入部があった。</p> <p>*教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価 55.4% (R1年度 75.4%) (△) *部活動加入率 39% (R1年度 30%) (◎)</p> <p>(3) ア 何度も再計画を強いられたが、コロナに関わる人権問題や SNS 上の誹謗中傷も機会あることに組み入れ、計画以上の人権教育を実施することができた。</p> <p>*生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 87.9% (R1年度 68.8%) (◎)</p> <p>イ コロナの影響で、外部講師による教職員人権研修が計画通り開催されず、内容的にも計画より満足できるものではなかった。(教職員研修年間3回：R1年度3回) (△)</p> <p>ウ 校外的な活動は機会が少なかったが、校内において、日本語指導の必要な生徒との交流や行事は昨年度並みに実施できた。</p> <p>*生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会」肯定的評価 48.8% (R1年度 48.1%) (△)</p>
<p>3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 進路指導の取組み</p> <p>(3) 地域等との連携強化</p> <p>(4) 働き方改革</p>	<p>(1) ア キャリア教育の充実のために、職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。</p> <p>(2) ア 進路決定及び定着のための取組みを継続する。</p> <p>(3) ア デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。</p> <p>イ 地域の外部機関（東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等）や小・中・大との連携を強化する。</p> <p>(4) ア 働き方改革を常に教職員に意識をさせ、仕事の効率化を図る。 イ 時間外勤務の多い人の状況把握や声掛けをし、時間外勤務の平均時間の減少を図る。</p>	<p>(1) ア 進路未定率 15%以下 (R1年度 17.8%)</p> <p>(2) ア 学校斡旋就職内定率 85%以上継続 (R1年度 86.1%) ア 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価のアップ (R1年度 75.7%)</p> <p>(3) ア デュアルシステム意見交換会の開催 (R1年度 1回)</p> <p>イ 教員による地域の外部機関のイベント、会合への参加回数 (R1年度 5回)</p> <p>(4) アイ ・ 時間外勤務の年間平均時間の減少 (R1年度 420時間5分) ・ 月80時間超過者の延べ人数の減少 (R1年度 45人)</p>	<p>(1) ア エンパワメントスクール4年めで、充実したキャリア教育のプログラムが確立したものの、外部と連携する行事はほとんどできず、校内での行事や教員による指導が中心になった。</p> <p>*進路未決定率 15.3% (R1年度 17.8%) (－)</p> <p>(2) ア 計画通りの進路指導が十分にできず、社会的にも高卒就職の状況が厳しかったが、校内で可能な限り丁寧で細やかな指導を実践した。</p> <p>*学校斡旋就職内定率 88.2% (R1年度 86.1%) (○) *生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 87.5% (R1年度 75.7%) (◎)</p> <p>(3) ア コロナ禍の中、参加人数を制限しながらも小規模ながら校内において、昨年度同様、デュアル実習意見交換会を実施した。事業所間でコロナ禍の中の工夫等、参加者にとっても有意義な情報交換ができた。また、デュアルシステムでの連携事業所とは、教員による訪問を積極的に行うほか、メールで情報交換できるシステムも構築した。</p> <p>*デュアルシステム意見交換会 12月1回開催 (R1年度1回) (○)</p> <p>イ 3月に新たに設立するデュアル地域協働本部に向けた準備会議を2回開催。地域の会合には、開催の中止、参加者の制限、会員のみでの実施等で参加できる機会がなかった。</p> <p>*管理職・首席のイベント、会合への参加回数1回 (R1年度5回) (－)</p> <p>(4) アイ 日ごろから時間外の把握と教員への声掛けを心がけ、特に多い人については、校長による注意喚起や個別面談を実施。また、働き方改革や仕事の効率化の一環として、3年間の学校行事、HR計画、各分掌等の年間スケジュール一覧表を作成した。</p> <p>*時間外勤務の年間平均時間 325時間47分/人 (R1年度 420時間5分/人) (◎) *月80時間超過者の延べ人数 16人 (R1年度 45人) (◎)</p>

## 府立布施北高等学校

4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信	(1) 教育活動の充実	(1) ア エンパワメントスクールの教育活動を充実させる。  イ 地域とのつながりをさらに発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。	(1) ア 生徒学校教育自己診断における学校生活満足度 67%以上 (R1年度 65.4%) ア 生徒学校教育自己診断における卒業時のエンパワメントスクール満足度 80%以上 (R1年度 78.6%)  イ 生徒学校教育自己診断における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」肯定的評価 50%以上 (R1年度 47.1%)	(1) ア 本校の特色ある教育活動は、外部との連携が多いため、中止や縮小等不十分なところも多々あったが、今までの蓄積により、校内において内容ある教育活動を実施することができた。 * 生徒学校教育自己診断における学校生活満足度 74.5% (R1年度 65.4%) (◎) * 生徒学校教育自己診断における卒業時のエンパワメントスクール満足度 86.4% (R1年度 78.6%) (◎)  イ 教育活動における地域とのつながりは、発展させるところか、縮小や制限を強いられた。 * 生徒学校教育自己診断における「保護者や地域の人とかかわる機会がある」肯定的評価 42.0% (R1年度 47.1%) (△)
	(2) 積極的な情報発信	(2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。  イ 本校の活動状況を、校内モニターやホームページ (HP) を活用して校外外に発信する。  ウ PTA・同窓会との連携を充実するとともに、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛け、活性化させる。	(2) ア 中学校訪問延件数 200 件維持 (R1年度 219 校) ア 学校説明会参加者総数 700 人以上 (R1年度 773 人)  イ 学期ごとに校内モニターの内容更新 イ HP のブログ更新回数 80 回以上継続 (R1年度 89 回)  ウ 保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」肯定的評価 50% 以上 (R1年度 45.9%)	(2) ア 動画配信や広報誌の配布は積極的に行ったが、コロナ禍の中で、中学校訪問や学校説明会は制限があり、数値的にはかなり減少した。 * 中学校訪問延件数 95 校 (R1年度 219 校) (－) * 学校説明会参加者総数 428 人 (R1年度 773 人) (－)  イ 臨時休業、分散登校、行事の中止や制限が多くあり、学校の話題性が乏しく、校内モニターやホームページの材料となるものが少なかったため、更新回数は十分にできなかった。 * 校内モニターの内容更新 1 回 (R1年度 1 回) (△) * HP のブログ更新回数 40 回 (R1年度 89 回) (△)  ウ 保護者の学校参加を制限せざるを得ない状況があり、物的支援と緑化、美化活動等野外中心の活動となったが、学校へ足を運ぶ機会も少なく、活性化するほどには至らなかった。 * 保護者学校教育自己診断「授業参観や学校行事に参加」肯定的評価 42.2% (R1年度 45.9%) (－)